

平戸市都市計画マスタープラン

第4回策定委員会 議事要旨

日 時 平成24年12月18日(火)午後14時00分～午後16時00分

場 所 庁内3F会議室A・B・C

出席者

【委員】鮫島委員長、町田副委員長、木田委員、須藤委員、相知委員、末永委員、松尾委員、立石委員、鴨川委員、井手口委員、重富委員、池田委員、岡委員、松本委員、北川委員、新井委員、尾上委員、松田(範)委員、吉村課長(森委員代理)、松田(隆)委員、荒木委員、佐々木課長(小川委員代理)

【事務局】白鞘建設部長、松山都市計画課長、橋口参事監、三好参事、村山技師

【国際航業】泉田、的野

1. 開会

2. 議題

(1) 全体構想について

委員長：前回委員会で、全体構想案 P29 の「土地利用の方針図」にて“沿道市街地”の表現は誤解を生むのでは？という議論があったが、あえて残すのか？

事務局：協議を行い、明らかに沿道市街地にならない部分は方針図から削除している。また、凡例を“沿道市街地”から“一般市街地”に改めた。

鴨川委員：凡例の“戸建てを中心とした住宅地”は“住宅地”のみで良いのでは。

事務局：国道383号沿線は、道路中心から50m範囲が用途地域上で準住居地域となっており、店舗や事務所等も建てられるように指定されている。将来的に用途地域が変更になり、沿線の用途が変わった場合はマスタープランも変更するが、現在は用地地域に合わせて配置しているということをご理解いただきたい。凡例の『戸建てを中心とした住宅地』は用途地域では第一種住宅地となっている。

委員長：P29の「土地利用の方針図」は現在の用途地域に対応する形で色を塗っているという回答だが皆さんよろしいだろうか。また、住居地域であることは確かなので、“住宅と商業や業務等が並存する”を外して“一般市街地”だけの表現の方が分かりやすいのではないかと。

事務局：誤解を招かない表現を再度検討する。

(2) 地域別構想

平戸地域について

副委員長：オランダ商館前の県道について復元・整備の話があったが、今回の計画では扱っていないのか？

事務局：マスタープランでは個別の道路整備について表記しておらず、道路全体の整備として謳っている。

副委員長：前回のマスタープラン策定のときも、オランダ商館前の県道整備の話はあったが、20年後を見通した時に、この道路は使用できなくなるのではないか。その場合、道路に変わる移動手段をどうするか？という議論を扱ってもいいのでは。

事務局：道路が使用不能になることはないという前提で計画している。

松田委員（教育）：復元について地元等と色々と協議した上で、現段階では話が消滅したわけではないが、対応はしないこととなっている。

末永委員：地域別構想 P7 の「交通整備の方針」にて道路整備のことに触れているが、「市街地整備・防災の方針」の駐車場整備の方が重要ではないか。平戸には買い物客や観光客のための駐車場が少なく、路上駐車が多数。駐車場を整備してから道路整備を行った方がいいのではないか？また、商店街を一方通行にした社会実験はとても良かったと感じており、すぐに取りやめたのは残念だった。具体化に向けての話はないのか？まず、交通事情に対する、路上駐車してはいけないという根本的な思想を市民に広める必要があると思う。

委員長：全体構想案の P31「生活道路の整備」にて、駐車場の確保のことは謳っているが、駐車場確保が最も必要なのは平戸地域で、他地域は何らかの地域で確保してある。駐車場をどこの場所にどのくらい作るか、どういう仕組みでやれば効果的か、案内表示、一方通行などを総合的に考えていく必要があるだろう。実際、全国で問題となっていることだが、商店街に駐車場があっても月極駐車場が多いため、買い物客用の駐車場が少なく、数はあるはずなのに足りていないという現象が起きている。駐車場整備については全体構想だけではなく、地域別構想にももう少し書き込んでどうか。

副委員長：駐車場については単に量的確保のことだけではなく、いかに便利に利用できるかを考えなければならない。現にある駐車場台数はかなりの数だと思うが、それでも路上駐車をする人はいる。それと、観光客に対して親切であるためにはどうすればいいのか。また、前回委員会の意見反映についてだが、人口減少問題はファミリー層流出が関連していると分析してあるが、ファミリー層が出て行かないための街づくりについての関連付けが弱く、上手く繋がっていないように感じた。沿道商店街をどうしていくかは大きな課題だと思うが、20年後を意識して他のまちづくりと絡めてトータルに考えていくべきだろう。構想案については、全体的に日本語がこなれていない印象を受けたので、改善して欲しい。

中野地域について

事務局：修正点について。地域別構想 P9 の「地域の概況」の下から二番目の項目にて、“加工場”を“水産加工場”に修正願う。同じく P11「基本的な都市づくりの課題」の一番上の項目の“食品加工業”を“水産加工業”に修正願う。

委員長：平戸地域でも感じたが、「都市づくりの基本方向」のキャッチフレーズが長く、読みづらい。25文字程度でキーワードを並べ、下に解説文を入れてはどうか？また、

全体的に文章のセンテンスが長くて頭に入りづらいので、一行区切りを目安として句点を多くしてほしい。

副委員長：基本方向を『川内かまぼこの郷』というように短くしてはどうか？

委員長：全体構想で子育てしやすい地域、高齢者に優しい地域などを目標で挙げているのだから、地域別構想ではその地域の住民が誇りに思っていることを打ち出せば良いと思う。

津吉地域について

立石委員：津吉には特産物がある訳でもないのに、高齢者にもやさしい街づくりという一本で進めていく。地域別懇談会でもそのような意見だったと思っている。

委員長：津吉から佐世保に船が出ているが、一日の運行数はどのくらいなのか？

立石委員：一日4往復である。高齢者にやさしいまちづくりを目標にすれば、商店街の活性化についても自宅から来られない高齢者を商店街の商品を扱うサロンなどに送迎し、買物してもらうという方向が出来ていくと思う。

委員長：高齢になると外出し辛くなるし、複合施設で買い物ができるなど地域社会で暮らし続けていけるような案はいいと思う。基本方向の下に詳しく入れてほしい。

田平地域について

池田委員：新しい道路が出来た後にどういう変化が起こるかまだ分からないが、田平を通り越してしまうのではないかと心配がある。田平港に新しく商業施設（平戸瀬戸市場）が出来たが、周辺の建物は耐震化されているのだろうか？商業地としては平戸港よりも田平港の方が低いのではないかとイメージもある。現状を見ると、住宅地というよりも観光をメインとしたような商業関係を発展させていく方向になるのか？整備方針は現状を見た内容だと思うが、用途を絞り込んで計画をしていかないと今と変わらない状態になると思う。野田半島を宅地化して住民を誘致するというのも考えられるのではないかと。景観利用を表現してほしい。

重富委員：基本方向にて“新たな道路建設を生かした”とあるが、これでは田平は道路だけしか良いところがないように思えるので、“平戸瀬戸市場を中心としたまちづくり”とした方が田平らしさが出るのではないかと。他にも田平公園の緑地や特色ある景観など、もっと田平らしさを表現する基本方向にできないか。

委員長：今後の田平が発展していくには、自然、景観、歴史などの地域資源を生かした6次産業に取り組みなければならないので、それに沿った基本方向に変えてほしい。また、道路が出来ればまちが良くなるということではない。島原の話だが、普賢岳災害の後に道路を大量に作った結果、新たな道路沿いにショッピングセンターが出来てしまい、地元の商店街が閑古鳥が鳴くことになった。道路が出来るということは、観光客もより素早く動け宿泊客が減るという事態もありえるので、引き止めるためには田平と平戸の力を合わせ、両方を行き来し観光するために宿泊するという魅力を発信していくことが大切である。それが実現すると、市民の日常生活も充実していく。

重富委員：田平港の瀬戸市場や田平公園に駐車場が出来たが、街を回遊するところまでには至っていない。人が車から降り、歩いてもらうには何が必要か？回遊させるために

必要なことなども計画に書いてほしい。また、他県から来た人に「どこに何があるかわからない」「観光地の看板はあるが分かりにくい」とよく言われる。草原キャンプ場や城山焼や城山公園など既存のものを生かせるようなまちづくりをしてほしい。

委員長：交通整備にしても、ハード面だけではなくソフト面・総合システムについても書き込んでほしい。瀬戸市場に来た観光客に対し、田平の方へは何キロ・何分という看板を示すと行きやすくなるだろうし、道路にも交通看板があると、平戸は走りやすい、親切だという印象を持ってくれると思う。

副委員長：回遊の仕組みづくりについて書いてはどうだろうか？

事務局：具体的に書くことは難しい。

委員長：都市計画の交通体系整備には道路や鉄道などハード面を上げるが、システムなどのソフト面をあえて書くことも必要ではないか。

重富委員：出来ればそういったものを書いてもらいたい。10年後に計画を見直した時に道路と駐車場のことしか考えていないとまちづくりが進まないと思う。

(3) 実現方策について

委員長：事業が並んでいるが、20年で実現出来ればよいもの、10年後には陽の目を見てほしいもの、5年後には実行に入ってほしいもの、というようにメリハリがほしい。濃淡が必要ではないか？それぞれに工夫して表現してみてもどうか。

副委員長：西九州道路は最短でいつごろ開通する見通しだろうか？平戸インターが使えるのはいつになるのか？

建設部長：今年1月にアセスメント調査を開始したが完全に終わっておらず、平行して都市計画決定にも取り組んでいるので、事業は進捗しているがいつ開通するかは明言できない。願望としては3年後を目途に着手できればと考えている。平戸は広域農道に繋がるように計画しており、最終的に完成するのは15年後程度になるのではないかなと思う。

副委員長：マスタープランが目標としている20年後には開通している可能性が高いということか？

建設部長：平成45年には完成している予定である。

副委員長：田平地域に道路が出来たとして、それまでに地域整備をしておかないと、観光客が通り過ぎるだけになってしまう。皆さんにはそこまで想定してこの計画を考えてほしい。また、全体的に文章が分かりづらいので改善してほしい。

事務局：今回は計画の内容を圧縮しているので、こうなってしまった。

委員長：全体としてもっと分かりやすく、具体的な表現に努めてほしい。整備予定の事項、検討中の事項など市民にも理解できるように分類してほしい。

事務局：備考欄に、具体的に書いていく。

鴨川委員：P28・「観光の振興」に『中心市街地の観光拠点としての整備』とあるが、合併した効果を上げるために、平戸と田平の観光的ネットワークの基盤を作ることを表現できないか？両者が協力して盛り上げていく旨を書いてほしい。

荒木委員：P27・「自然環境の保全」にて、保全、有効活用について書いてあるが、まず

は現状を維持していくことが先行すべきであり、その後に保全、有効活用と続くと思う。維持に向けた市民の自発的な活動の方向を記載すべきではないか。また、概要の項目の並びが悪いと思う。それと P26・「土地利用」に『緑地の保全』があるが、農地をどちらに入れているのか分からないので改善してほしい。

委員長：市民の自発的な努力を励ますような表現があり、それから法的な表現が続くと良いと思う。市民に呼びかけているわりには、伝わりづらい。「土地利用」の『緑地の保全』、「自然環境の保全」の『自然環境の保全』、どちらに農地が入るのかはつきりさせた方がいい。

委員長：今日の委員会の意見をまとめ、来年パブリックコメントを実施し、3月にそれを受けた策定委員会を行い、マスタープランを確定させるスケジュールである。

3 . 閉会

以上